公益財団法人
住友財団ニュース

第7号
2020年12月

Sumitomo Foundation News　Vol.7

新しい革袋のために

令和はコロナと共に歩むことになりました。
コロナ禍は世界の政治、経済、社会に制約と変革をもたらし、人類は新たな進化が求められています。

身近な例では、日々の生活や業務、研究活動において距離の確保が意識され、対面や集合することの必要性が問い直されています。こうした変化は人間の意識に作用し、新たな発想や価値観の萌芽につながる可能性があります。それはやがてイノベーションや社会構造の変革、オリジナルな思想や文化の創造をもたらす契機にもなります。

環境変化に伴い個人は意識改革が求められます。ＡＩの深化が進むなか、国家や企業は協調性のある同質的な人材だけでなく、企画力、マネジメント力のある創発的な人材を必要とするでしょう。新たな概念を創造する力や主体的な行動力、真のリーダーシップが問われます。

こうした環境の変化や個人の意識の進化とともに、公益法人はその目的・意義が問い直されるべきです。

資金調達や事業推進、組織運営や人材育成等あらゆる面において外部との連携や他業態とのコラボレーションが重要になります。「公」と「私」の狭間を埋める支援活動や課題解決を目指す取り組み、先駆的な分野への展開や新たな価値を創造する活動など、いずれもその必要性や効果のみならず、概念や目的さえも検証されるべき時期に差し掛かっているのかもしれません。

「新しい酒は新しい革袋に盛れ」

変えるべきものを大胆に変え、守るべきものは正しく継承する、その大原則の下に公益法人のあらゆる活動が見直されるのです。その先にあるのは、フレキシブルでよりダイナミックな公益法人の姿です。
全ての公益法人は、否応なく変革の荒波に投げ出されようとしています。

主な活動内容（2020年３月～１１月）　＊（詳細紹介）			
	1.	3月	2019年度国内外文化財維持・修復事業助成、アジア諸国における日本関連研究助成、その他助成採択者決定
	2.	6月	決議の省略による理事会・評議員会の実施、2019年度年次報告書発行
＊	3.	7～9月	基礎科学・環境研究助成選考委員会開催
＊	4.	9～10月	2020年度アジア諸国における日本関連研究助成募集
＊	5.	10月	2020年度基礎科学・環境研究助成、その他助成採択者決定
	6.	10～11月	2020年度国内外文化財維持・修復事業助成募集

Copy Right © The Sumitomo Foundation.　All Rights Reserved.

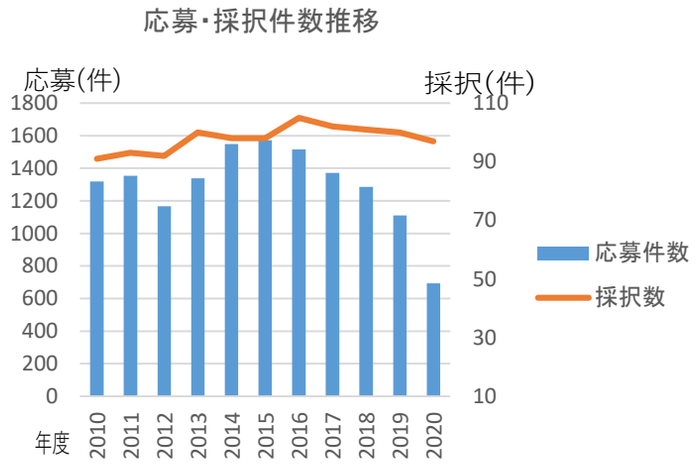
活動報告１（基礎科学・環境研究助成）

基礎科学研究助成

【2020年度の応募・採択状況】

募集（４月中旬～６月）は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言（4/7～5/25）の時期に重なったことから、応募件数は例年を大きく下回りました。大学や研究室の閉鎖、海外出張や国内移動の制限、オンライン授業への対応による負担増などが影響したと考えられています。

応募件数は減少しましたが、採択はほぼ例年通りの件数(97件)、金額（1億5000万円）でした。



研究テーマには、新型コロナウイルスに関係する基礎研究の応募が７件ほどあり、このうち５件 が採択されました。研究テーマは生物学の分野だけではなく、数学や化学、工学の分野からのアプロー チもありました。

【採択された研究テーマ事例】

新型コロナウイルスに対する感染予防策は、一般には ①ソーシャルディスタンス②マスク着用③手洗い励行が推奨されています。

ソーシャルディスタンスは「人との間隔をできるだけ２ｍ空けること」とされていますが、この２ｍの距離の妥当性を定量的に評価することを目的とする研究テーマが採択されました。

「COVID-19飛沫感染予測に向けた空気中を漂う固体粒子の混相流シミュレーション」（工学）
（横浜国立大学 北村圭一 准教授）

飛沫感染予測にはスーパーコンピュータを使ったシミュレーションが一般的です。しかし従来は空気の挙動のみを対象としていた例、計算方法やその信頼性が不明な例がありました。

今回の研究は、飛沫微粒子（固体）の挙動をも組み合わせて考慮し、その信頼性を十分検証しながら行うもので、より精度の高いシミュレーションが可能になるとみられています。

これによって、ソーシャルディスタンスの「距離２ｍ」の妥当性だけではなく、満員電車や航空機機内、飲食店や教室などの生活空間に応じたより精度の高い予測も可能になることが期待されます。

このほか今回採択されたコロナ関連の主な研究テーマには以下のようなものがあります。

・感染症数理モデルの解析（数学）
・COVID-19治療薬の探索（化学）
・炎症機能解明と治療薬開発の為の分子構造基盤（化学）
・SARS-CoV-2の光子生体肺イメージング解析（生物学）

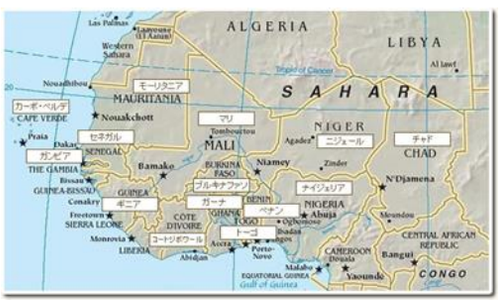
環境研究助成

環境研究助成の募集は、基礎科学研究助成と同時期のため、同様に応募件数は大きく減少しました。しかし採択は、ほぼ例年通りの件数（37件）、金額（1億円）を維持しました。

応募のあった研究テーマは、生物多様性、地球温暖化、農業・漁業・林業の保全、大気・海洋汚染、マイクロプラスチック、有害化学物質、医療・衛星、再生可能エネルギー等、多岐にわたり、自然科学分野のほか人文・社会科学分野も含まれています。

今回の特徴は新型コロナウイルスに関する研究が１３件あった点です。

【選考委員会風景（ＺＯＯＭ会議】



【西アフリカ諸国】

２回の選考委員会はいずれもＷｅｂ（ＺＯＯＭ）により会議を実施しました。
採択された研究テーマには次のようなものがあります。

○西アフリカでの多地点観測によるPM2.5の健康・社会経済影響に関する学際研究

○フィリピン及び日本の棚田群の劣化プロセスの解明と生態工学的保全手法の構築

○在宅勤務が一般化した社会における住宅内消費電力量の削減に向けたナッジの活用　【コロナ関連】

○福島県全域の地下水中放射性セシウムの汚染マップの作成　【震災関連】

○空気環境と人間動態の同時モニタリングに基づく「３密」環境リスク評価の試み　【コロナ関連】

○大型レーザー実験および数値実験による宇宙放射線の生成機構解明

【フィリピン　棚田群（世界遺産）】

コロナ禍による業務の変化

【新たな日常と変革への胎動】

新型コロナウイルスの感染拡大により本財団は在宅勤務、時差出退勤等による柔軟な業務体制をとっています。

オフィス内は消毒、検温、マスク着用、アクリル板の設置/換気を徹底しています。
海外出張は全面禁止。国内の出張や外出も必要最小限度としました。

しかし、こうした行動制限の結果、業務の効率化や生産性（質的）の向上に目が向けられるようになりました。

日常は大きく変わりました

災い転じて・・・・

・Ｗｅｂ会議の活用（選考委員会、理事会、外部打合せ）
・ＺＯＯＭによる海外向けオンライン説明会の実施
・ＰＣ増設、募集プログラムのシステム化着手

今後もリモート化、デジタル化を推進し、将来のＡＩ活用をも視野に入れた業務の見直しや職員の自発的なスキルアップに取り組んでゆきます。

活動報告2（その他助成）

新型コロナウイルス緊急支援への助成

震災など災害時の緊急支援に対する助成として、非公募の「その他助成」というプログラムがあります。今回、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急支援として、特定非営利活動法人「難民を助ける会」に助成を行いました。

助成の対象は、国内では障がい者団体や障がい者福祉事務所に対する感染予防のための衛生用品の配布や、障がいのある人の孤立を回避するための情報システムの整備などです。

また、海外での支援としては、感染拡大や死亡率が深刻化したパキスタンにおいて、障がいのある子どもを抱える約１５０世帯に対する食料品や衛生用品、日用品などの緊急配布が主なものでした。

感染は再び拡がりつつあり、その一方で医療機関や検査の体制は常にひっ迫する状況にあります。ワクチン・治療薬の開発も途上にある現状では、今後も経済的に困窮する社会的弱者を中心に支援が必要です。

【写真提供：いずれも難民を助ける会（AAR Japan）】

新任事務局長挨拶

今般、新しく事務局長に就任した日野孝俊です。

1987年に住友銀行（現三井住友銀行）に入行して以来、住友グループの会社の一員でありながら、本財団の活動については全くと言ってよいほど知りませんでした。

本財団は創立以来約30年になりますが、その活動は住友グループの社会貢献活動の一翼を担っているものです。バブル崩壊、震災、コロナ禍など取り巻く環境は大きく変化しましたが、変わることなくよりよい社会の実現を目指し必要な助成を続けていることが、本財団の存在意義のひとつだと感じています。

この財団の活動を更に充実するためにも、一人でも多くの方々にその姿を知っていただくことが大切です。今後はそうした点にも力を尽くしてゆきたいと思います。

〒105-0012　東京都港区芝大門1-12-16（住友芝大門ビル2号館）
TEL: 03-5473-0161　FAX:　03-5473-8471
E-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp
URL: http://www.sumitomo.or.jp/

なお住友財団ニュースのバックナンバーは住友グループ広報委員会HP
https://www.sumitomo.gr.jp　から過去の更新一覧をご覧ください。